

# 明新館通信

平成21年度  
第2号  
(通巻17号)

山形県立上山明新館高等学校  
山形県上市市仙石 650 番地  
☎023(672)1700  
平成21年6月3日(水)発行

## 自転車の盗難を防止しましょう

二重ロック徹底週間を実施 5月12日(火)～15日(金)



自転車置場で二重ロックを指導

本校では、5月12日(火)～15日(金)を自転車の二重ロック徹底週間とし、自転車の鍵を二つかけることを生徒の皆さんに呼びかけました。最終日には、上山警察署の警察官や上山地区交通安全指導員の方たちにもお出でいただき、自転車通学生に直接ご指導をいただきました。

本校では、上山駅からの利用者を含めて約650名が自転車通学をしていますが、当日は学校のステッカーがなかったり、二重ロックの対策をしていない自転車が三十数台あり、持ち主の生徒に指導をしました。

### 放置(盗難)自転車が非行を誘発

自転車の盗難については、被害者も加害者も高校生が多いといわれていますが、自転車の盗難にあうと、通学が不便になることや経済的な損失、精神的な苦痛など大きな不都合が生じます。また、他人の自転車を黙って乗り回せば、それだけで「専有物離脱横領」という犯罪になります。盗んだ自転車を万引き(窃盗)や深夜徘徊のための移動手段に使っていたというように、非行をさらに誘発した事例もあります。自分自身が被害にあうことがないようにするのはもちろんですが、少年非行を防ぐためにも、自転車の二重ロックを推進し、ご家庭でも確認、声かけをお願いします。

## 6月は「食育月間」です

### 食育とは・・・

子どもたちの健全な心と身体を培うとともに、すべての国民が心身の健康を保持し、生き生きと暮らすことができるように、食に関する知識や食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てていこうというものです。



### こんな取り組みを家庭で推進しましょう

- 1 食事をしながら、食を通じたコミュニケーションを促進します。
- 2 栄養バランスが優れた「日本型食生活」などの健全な食生活の実践を促進します。
- 3 朝食をとることや早寝早起きを実践し、基本的な生活習慣を育成します。
- 4 食に関する体験活動、食前食後の挨拶の習慣化、環境への配慮、食料問題に関する理解、豊かな味覚の形成などを促し、自然の恩恵や食に関わる人々のさまざまな活動への感謝の気持ちと理解を深めます。

# 《食・農業担い手育成モデル事業》 県のモデル校に（国が助成）

山形県教育委員会は、「最上川ごっつおうさまプロジェクト」と題して、「国際的に価値ある食資源を創造する農の達人作り」をテーマにした、地域産業や関係機関とが連携した人材育成プログラム「食・農業担い手育成モデル事業」を、今年度から2カ年にわたって展開します。

これは、日本の農業を取り巻く環境が、農業従事者の減少や高齢化、食糧自給率が低いという状況の中で、地域の農業を担う人材を育成していこうと文部科学省と農林水産省が、昨年度から「地域産業の担い手育成プロジェクト」を始めているもので、国の助成を受けた取り組みです。本校は、県教育委員会からこの取り組みの実践モデル校の指定を受けましたが、農業に従事する可能性が高い生徒にはインターンシップ（就業体験）を2週間までのばすことが可能になったほか、食用ホオズキといった地域の農産物を振興させることによって、地域の活性化を目指す取り組みなどを行っています。

## ◎地域と連携・・・食用ホオズキ〈苗の販売・栽培講習会〉

本校では平成20年度から、食用ホオズキの産地化を目指している「上山まちづくり塾」と連携し、食用ホオズキの栽培・加工に取り組んでいます。5月2日（土）・3日（日）の2日間、一般市民の方々に苗を販売。また、5月14日（木）には「上山まちづくり塾」主催の栽培講習会が上山市まちづくりセンターで開催されました。講習会では、県村山総合支庁農業技術普及課の指導員が指導にあたり、本校の生徒も参加しました。



食用ホオズキの花



食用ホオズキの苗

## 「明日は君たちのもの」～自分を愛して下さい～



講師 高橋芳子 氏（元山形大学教育学部教授）

5月29日（金）、本校体育館において、生徒の皆さんに「マナーアップ講座」を開催しました。講師の高橋先生は、寂しさのあまり雪女になってしまった物語の冒頭部分を、津軽三味線の語り弾きで紹介した後、「どうすれば自分が輝くか」についてお話をして下さいました。ここにいる全員が幼い時、親を中心に周囲の人に愛されて育ったこと。頑張れるものをひとつ見つけることによって自信を持つこと。自分にとって本当に優しい

人を見つけることが大切で、そのためには自己責任の力をつけ、自分を愛し、人を愛すること。自分をぴかぴかにすることができるよう恋愛をすること。そして最後に、「自分を大事にして山形を大事に、ふるさとを大事にして下さい」と結びました。

## ※6月は「こどもの『いのち』を守る強化月間」です

今、子どもの「いのち」にかかわる事件・事故が頻繁に起きています。このような事件・事故には、現代社会のさまざまなひずみや情報化社会の「負の側面」が影響していると思われます。また、高校生自身も思春期のなかで、成長の過程ゆえの未熟さや心の荒れ、悩みや葛藤などの問題を抱え、自らを律していけない生徒も見られます。子どもの「いのち」を守るということは、子ども自身が自らの「いのち」を大切に思う生き方ができるようにしていくことだと思います。かけがえのない「いのち」を守るために、私たち教職員と連携を深めながら、親として愛情と責任を持って育てていきましょう。

《子ども》が迷ったときこそ相談相手になる  
《子ども》が間違った道を行きそうになったら壁となる  
《子ども》を励まし、成長や変化を見つめる

【向き合う】  
【伝える】  
【見守る】